

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

1番上田議員の質問を許可します。御登壇を求めます。1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さん、改めましてこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、上田雄一の一般質問をさせていただきます。その前に、今回の台風で被災された皆様、心よりお見舞申し上げます。一日も早い復旧を願っております。

前回の質問で、私は、中心市街地、スポーツ振興、教育、市の財産について質問させていただきました。中心市街地では、街路灯につきまして、ワット数を変えることで、現行約750千円の電気代が3分の1に減らすことが可能になったと、今回の議会の予算の方で上がっておりますけど、非常に喜ばしいことだと考えております。

初めてのことで、何分緊張していたことがきのうのように思います。2度目の質問で見違えるほど上達するはずありませんが、日々成長していこうと、今後とも市民の皆様の期待にこたえるべく、精進いたしてまいりたいと思っておりますので、よろしく御指導いただきたいと思っております。

先日も区の役員会の方で、私お伺いしたんですが、「啓祐さんになって、新聞やテレビに武雄市のように出てくるようになった」と、うれしそうに私に話していただいた方がいらっしゃいました。樋渡市政が動き出し、目に見えて武雄が前面に出てきたのではないかと感じる次第でございます。「佐賀のがばいばあちゃん」に代表されるように、にぎわうまちへの第一関門は、すばらしいスタートを切っているのではないかと考えるわけですが、私自身もにぎわうまちへと同じ方向を向いて、武雄市発展のために尽くしたいと思っております。

それでは、お聞きします。

今、世間では、子供たちにかかわった凶悪な犯罪が毎日のように報道されております。最近悲しいことに、被害者だけでなく、加害者も子供や未成年であるという事件も多く見受けられますが、まずもって私は、子供たちの安全・安心を確保することが何よりも重要なことだと考えます。最も大事にされなければならない子供たちは、我々大人が安全を守る環境をつくらなくてはと考えます。

私は日ごろ、子供たちとかかわることがとても多いのですが、先日、7月初旬になりますが、行われました子育て支援者交流会に参加してまいりました。武雄市内にそういった子育て支援に取り組まれている団体が、例えば、武雄子ども劇場さんとか、子育てサークルの会ぽっかぽかとか、もちろん北方、山内にもいろいろ活動されておまして、そのとき最も印象深かったのは山内の土曜ぶんこさん、そういったところを初め、市内全部で57団体あることにびっくりさせられました。と同時に、頭が下がる思いで皆さんの話を聞かせていただきました。

前回の一般質問でも出ておりましたが、そういう子育て支援にかかわる活動を行っておられる方々の情報交換の場、そして、子育て中の親が子供を連れて気軽に遊びに来れ、ほかの親と子育ての悩みについてや、気晴らしとっては語弊があるかもしれませんが、いろんな話ができる場所が必要ではないかと改めて感じさせられました。

そこでの話の中で、最近、子供たちの中で表情のない子供たちをよく見かけるとか、話しかけても、逆に子供たちに不審者に間違われるので声もかけられないといった話を伺いました。声もかけられないなどは非常に残念なことでありまして、私たちが小さいころは、近所のおじさん、おばさん、また遊びに行った先でもよう怒られよったと。声をかけられたりして、当時はだれの子供であれ、大人が見守ってくれていたように思うわけでございます。

今のこうした不安な環境や治安に危機感を持ったわけですが、私が考えるに、子供たちの安心・安全を確保するためには、地域の交流や世代間の交流が最も重要であり必要だと考えるわけですが、市長の考えをお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

子育てに関し、上田議員から種々の体験を踏まえた御指摘がありました。

私が非常にうれしかったのは、子育てのサークルに上田議員がおんさったとケーブルワゴンで拝見して、あれ、知っとる人のおいになったと思うたら上田議員やったけんですね、そういったところにみずから行かれているということに関しては、非常に私はうれしく思っています。その上で、先ほどの地域間、世代間交流については、私も全く同じです。私が小さかった昭和50年代も、まだ親とか、おじさん、おばさんとか、そういう人たちが自分の子供のようにかわいがってもらったと、これが武雄のよさやったというふうに思うとですね。ただし、それが今うまく機能していないといったことで、行政としてどうすればいいかと。

そういった意味で、交流の場は種々答弁いたしておりますけれども、なるべく空き庁舎であるとか、今後出てくる空き教室であるとか、あるいは公民館であるとか、積極的な交流の場をつくっていききたいなというふうに思っています。こういった場が必要だということがあれば、またぜひ教えていただければありがたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

改めてそういう場が必要だなと感じましたので、今後もっと勉強して、具体的な提案を続けられるように頑張りたいと思います。

先日、所用で息子を学校まで迎えに行くことになったわけですね。そのときに、息子は途中まで学校から2人で帰ってきよったわけですよ。そいぎ、迎えに行った私は、当然、息子

ば車に乗せるわけですけど、そがんすっぎ、2人で一緒に帰りよった子供が、息子ば車に乗せることによって、その子は今度1人で帰らにやいかんような状況になるわけですね。かといつて、その子にしてみぎぎ私は他人やっけんが、他人の車には乗られんと。それが徹底されとったわけですけど、私も、息子も一緒やっけんよかろうと思うて、その子にも「家まで送ってやっけん、乗んしゃい」と言って送っていつて、送った際にその子の保護者の方に事情を説明して御理解いただいたわけですけど、ひょっとすっぎその子も、何で知らん人の車に乗ったねと 知っとお人じゃあろうばってんですよ。そいけん、そがんして怒られんさったかもわからんなというような気持ちになったわけですよ。それは、何がよくて何がだめかも、何より子供たちは何ば基準に判断すればいいかがわからんとやなかかなと考えさせられました。

そういう意味でも、地域間の交流とか、世代間の交流とかが必要だと認識させられたわけですけど、その解決策と言つては大げさですけど、今、さまざまな地域間の行事が行われていると思います。先日も町子連、市子連、県子連など、キックベースとかミニバレー、そういったスポーツフェスタが行われておりまして、大人の部の自治公民館対抗のミニバレー大会というのもありました。スポーツフェスタでは、私、昨年に引き続き、天神区のキックベースチームの監督をさせていただきました、私自身、自分のできる範囲ではありましたが、楽しく参加させていただきました。炎天下の中ではありましたが、子供は風の子といいますが、本当に一生懸命頑張っておつて、楽しそうに参加してくれました。

こういったスポーツ行事や地域の催し物などについて、関係各位におかれましては、忙しい中御尽力いただき、改めて敬意をあらわす次第でございますが、現在行われているのは、子供同士のスポーツ、大人同士のスポーツというやり方で行われておりまして、何を言いたいかというと、こういう行事やったら、子供と大人を分けた行事やったら、地域の子供が地域の大人の顔を知らん。もちろんその逆もあつて、そういう現象が起きるとやないかと。実際に大人の一部の方は、先ほど申し上げた世話役とかしよんさったですね。子供の顔ば知っとおけんが声をかけておられますけど、地域のそういう活動や行事に参加しない、あるいは参加することができない大人の人たちが子供の顔を知っているからといつて声をかけても、かけられた子供たちはその大人の人を知らんから、知らない変なおっちゃんというような感じで、いわゆる不審者とか変質者と間違えられるような、そういう現象になっているんじゃないかと思うわけでございます。

確かに、知らない人とは話をしない、ついていけないといった指導も徹底されているので、子供たちはそうした約束事を守ってくれているわけで、非常にいいことだと思います。ただ、心配して声かけした地域の大人が不審者や変質者と間違えられては、声かけなどもうしてもなかわけですたいね。こういう間違いをなくすためにも必要かと思うわけですし、そこで、私が子供のころはキックベースとかじゃなくて、ソフトボールだったと記憶しておりますけ

ど、子供だけのものももちろんありましたけど、年に1回だけ、親子ソフトボールというのがあっておったわけですね。これは親が子を、子が親を応援して競技し、そして一緒にお疲れさん会をしていたように記憶します。現在の社会的な背景や少子化でなかなかうまくいかない現状もわかりますが、そういう親子競技を行って、地域みんなが顔見知りになることが重要だと考えるわけです。

先日も、市民より市のホームページに要望が届いておりましたけど、青少年育成を行う上で親子ソフトボール大会を復活してほしいと。これは8月3日付の記事でしたけど、私と同様の考えを持つ方が私の周りにも多数いらっしゃいます。そんな行事に参加して顔見知りになっている子供たちは、下校途中なんかでも車でたまたますれ違うぎ、「おんちゃん、送って、送って」と言うわけですかね。もちろん、「歩いて帰るとも運動やっけんが、そがんこと言わずに歩いて帰らんば」と言って送ることはせんですけど、そいぎ「けちか」と子供たちには言われるばってん、それが何でもない会話ばってん、それが子供たちには必要かと、これが子供たちの防犯につながる原点やなかかなと思うわけですね。

こういうことに対して、市長、どがん思われんさっでしょうかね。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御指名でありますので、私の方からお答えします。

全く同感です。うなずきながら聞きよったところであります。はい、全く同じであります。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

済みません。私自身、今でも懐かしく思い起こされるような行事でしたので、非常に有意義であると思います。あえてソフトボールにこだわっているわけではありませんけど、今の武雄のどの施設でも、親子の世代というのが比較的参加しやすく、満足できるのがソフトボールだと思うわけですし、市長も私たちと同じ年代ですので、当時参加されたことはあるんじゃないかと思います。そういうのの昔話で、年配者の方々とも当時のことを懐かしんで会話の弾むもんやなかかなと思うわけです。

ただ、今、子供たちが行われている行事でミニバレーとかキックベースでも、もちろんいいと思います。一部では、区の単独ではありますけど、グラウンドゴルフなどを行っている区もあると聞きます。その結果、どがんなるかと言うぎ、町民運動会とか地域行事などで一番の懸案事項というのは、20代、30代の方の参加が一番の懸案事項やなかかなと思うわけですね。ただ、そういったものも親子を通して、子供たちの行事を通して、積極的に参加してもらおうということが地域の交流であり、また、子育て支援や青少年育成に対する意識づけも

できていくと思うわけです。

今の時代、決して子供たちの行事に肯定的な考えを持っておられる方ばかりとは限りません。現に、子供たちの忙しさに振り回されていると思っている方もいらっしゃると思います。しかし、今の時代、親たちの、そして子供たちの負担にならないように、子供たちのために何が必要かと、何をもってすれば以前のように地域密着のまちになるかをしっかり見きわめて、人数不足なら消防の区でというような感じで、あっちの区とこっちの区が合同でとか、いろんなそういうとを検討して、一緒に行って、お疲れさん会も一緒にてなっぎ、またさらに広い範囲の地域間の交流が見込めると思うわけでございます。

そういった意味でも、新しい市全体の事業として、元気な武雄市交流の源として、前向きに検討していただければと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

ふるさとで隔から隔に子供たちの声が聞こえる、こんなふるさとづくりは元気が出るものでございます。先ほど親子ソフトボールのことが出ておりましたが、確かに平成3年、4年ごろまでは親子ソフトボールがあっただけでございます。その後、チーム編成が非常に難しくなったということで、現在の親子フットベースボール、あるいは親子キックベースボール、こういうふうなものに変わっているようでございます。自治公民館の館長さんなども非常に頑張っているところも多うございまして、先ほどお話がありましたように、親子グラウンドゴルフ大会とか、あるいは親子ドッジボール大会とか、いろいろな手法で各地域の世代間交流というものをやっただけでございます。もちろん、皆さん方も御承知のとおり、通学合宿などはその最たるものでございまして、全市に今広がっているものでございまして、これから山内町や北方町におきましても取り入れていただけるものと期待をしております。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ積極的に御検討いただければと、心から思っております。

青少年育成絡みでもう1点、ちょっと食育について質問させていただきます。先日の3番議員の一般質問の答弁の中で、また、翌日の新聞でも記載されて反響を呼んでおります食育課の設置です。私の方から、もっと現場で、もっと身近な取り組みについてお伺いしようと思います。

核家族の増加、そして夫婦共稼ぎが当たり前のようになった今の時代、家庭で規則正しく偏らない食事をとることの大変さは、自分の家庭でもそうですが、非常に難しくなっていま

す。最近は、おいしい冷凍食品が出てきたり、ファストフードやインスタント食品、コンビニ弁当などで済ますことも多々あると聞きます。もちろん、うちの妻も頑張って食事をつくってくれてはいますけど、例に漏れず、うちも共稼ぎの家庭であり、こういった食事で済ますことも少なからずあるのですが、そんな中、1日3度の食事で、子供たちにとって最もバランスのとれた食事ではなかろうかと思えるのが学校給食でございます。

まずは、学校給食での食育への取り組みを教えてください。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

健やかな子供たちの健康というものは、だれでも一番大事にしたい宝磨きの一つでございます。学校給食におきましては、現在、食育という視点から取り組みを行っているわけでございますが、四つのことから述べさせていただきます。

まず、食育の広報というところで、学校現場でどういうことを行っているか。まず一つは、給食だより、あるいは保健だより、こういうものでの広報活動。それから、学校のホームページでも、武雄中学校は今、朝食のことについての広報をやっております。

それから、食育の具体的な活動ということで申し上げたいと思いますが、これは給食の試食会、これは議員の皆さん方も御参加いただいた経験もあると思います。それから、親子料理教室、これはそれぞれの地域には食育のオーソリティーの方も、地域婦人連絡協議会の会員の皆さん方もいらっしゃいますから、そういう方を講師に招いたりして行っているところもございます。それから、生産者感謝の会、山内中学校あるいは山内東西小学校におきましては、生産者の皆さん方が学校給食に携わってもらっておりますから、そういうものも行っていただいております。

次は研修会でございますが、これは職員の研修の方から申させていただきます。学校栄養職員研修会、これは定期的に、現在、武雄市内に配置されております学校栄養職員の研修会を行っております。それから、献立の合同検討会、これは大体3日、約3日でございますが、全市統一献立をやっておりますが、そういう検討会、あるいはそれぞれの地域での地産地消を視野に入れた献立の情報交換会、こういうふうなものも行っております。それから、食べ物は大変左右をするものでございます。調理員の皆様方の研修会も毎年行わせてもらっております。

最後でございますが、講習会、講演会について申し上げます。ふるさと教育フェスタという中で、食育等をテーマにした講演会を行った学校もございます。それから、ストレートに食育講演会という名で講演会を行った学校もございまして、学校給食の果たす、今日の日本の食の文化の中で大変重要な位置になりましたので、学校給食を大いにPRしながら、健全な、健康な食生活を子供たちに送っていただくように頑張っていきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの答弁の中で、私がきょうお伺いしようと思っていたのが、1 番の広報についてですね。以前から学校の方から献立表というか、給食だよりとか献立表とか配られていると思います。そこに記載されてあったとで、例えば、1 日に必要な野菜の量というのが350グラムと書いてあったわけですね。そのうち緑黄色野菜は100グラムとらないかと。食育の中心であると考えられる学校給食では、どういう食材が使われているというのはまだわかるんですけど、1 人前の目安として、どれだけの量が子供に供給されているかというのは、献立表を見てもちょっとわからんわけですね。となっぎ、朝晩の食事で子供たちに最低どれだけ食べさせないかとという基準もなかなかわからんわけですね、昼間が学校給食なもんで。

そいぎ、毎月配られている献立表には、メニュー、材料、そしてカロリーというのが掲載されておりますけど、各校、そして、市内 6 名の栄養士さんが独自で工夫され、1 食分のレシピなど掲載されている場合もあるようですが、栄養士の方が計算され、情報として掲載されているんですけど、世間一般の保護者の方は、カロリー計算をして日ごろの食事をつくられている方がどのくらいいらっしゃるかなと、ちょっと疑問を持ったわけですね。また、もちろん各家庭には家庭の料理とか、家庭の味つけとかがあって、カロリーというのは材料の量とか種類、そしてまた味つけの調味料の量とか、そがんとまでいろいろ関係して、カロリーというのが決まると思うわけですね。

そこで、私は大変だと思うんですけど、学校給食の献立表に材料の量とか、調味料の種類とか量とか、そういった情報を明記して、カロリー表示も細分化して、これにはどのくらいというような目安、情報として提供できれば、家庭での子供たちへの食事をつくる際のよきアドバイスというか、食育への大きな道しるべとなるんじゃないかなと考えるわけです。

私も実際、先日、うちの妻がちょっと体調を崩して、ひょこっと子供の食事、うちの子の食事を用意せにゃいかんようになったときに、果たして、さあ、何ば食わしゅうかにゃと思うわけです。そいぎ、とりあえず飯炊いてどがしゅうか、おかずはどがしゅうかとなったばってん、もう時間もないし、ちょっと総菜を買って食べさせたような経緯があるとですけど、最低どれだけとらせにゃいかんとか、簡単なレシピとか、そういったのもいるんな、何というですかね、種類が豊富じゃなくてよかけんですよ、例えば、お父さんたちが急につくらにゃいかんようになったとか、ふだんつくらない人が急につくらにゃいかんようになったときに、そいば見てつくっぎ簡単にだれでもできるような、例えば子供たちにとっていいメニューとか、そういったとばある程度基本的なデータベースさえつくってしまうぎ、そこまで明記でくっじゃないかなと思うとですけど、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

すべての献立について、今、議員お話しのようなことができないものかということで、事前にそういうお話を伺ってありましたもんですから、栄養職員の方に聞いてみました。それは今の時点では、栄養職員の準備の段階で非常に厳しいだろうと。それで、今、学校栄養職員の会合の中では、ぜひこういうものはどの御家庭でも献立の中に入れてほしいという、そういう毎月1回ぐらいのお薦め献立の分だけであれば、今おっしゃったようなものも可能でしょうと。それが結果的にはどの家庭でもしやすいんじゃないだろうかというようなことで、今、学校栄養職員の方では話題として、これから取り組んでいくように努力をしていこうという話をしてもらっております。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ、実現していただければと思います。

先日も、市のホームページがリニューアルしてスタートしているようです。市長が前に勤務されていた高槻市のホームページなどでは、既にもう行われておるんですが、ホームページ上に、週1とか、月1とかで給食のメニューを細分化した形で載せるとなっぎ、ホームページの魅力向上にもつながると思うわけですね。これはいいと思えるところは、まねしてでも取り上げていただくのがいいかと思うわけです。

高槻市では、献立レシピは掲載されておったけど、地産地消の情報とか、カロリー計算とか、そういったのまでは掲載されていなかったわけで、市民により詳しい学校給食の情報を提供して、なおかつネットで簡単に見ることができるという情報発信の整備が望ましいと考えます。ぜひ実現していただければと思います。データベースさえつくれば、一つのデータをずっと流用して、ちりも積もれば山となるというような感じで有意義な情報になることは間違いないし、1日3度の食事でも最低2回は家庭でつくるわけですね。忙しい毎日、食事を準備される方の負担の軽減と、そして自己啓発につながると思いますので、ぜひよろしくお願い致します。

続いて、スポーツ振興についてです。

先日、毎年行われているんですが、九州親善交流軟式少年野球大会が武雄の地で開催されました。種子島を初め、九州各地から48チームが参加した大会だったわけですが、主催された武雄市軟式野球連盟の方々や共催した社団法人武雄青年会議所の皆さん、また多数の関係者、保護者の皆様の努力もあって、48チームの中で20チームの宿泊誘致に成功し、概算で計算しますと、1人1泊11千円と計算して、1チーム30名で6,600千円程度の売り上げと。また、大会参加者1,000人を超える飲食費などを考えると、多少なりとも武雄の経済に貢献し



たんじゃないかと思うわけです。

これこそがスポーツ振興というふうと思うわけですが、せっかくそういう企画を行っても、武雄の施設の不備は目につくわけです。実際そのときの来場者の声に、「うわっ、何、この球場。草ぼうぼうで、ぼろぼろやん」と、私、直接聞きました。1人じゃなくて、2名の方からお聞きしておりまして、ほかの関係者もすぐに同じことを言われたと聞いております。ほかにも、「この辺にコンビニはないですか」と聞かれ近くのコンビニを教えたと、ただトイレに行きたいだけと。4番議員の話にもありましたが、余りにも白岩にある既存のトイレが汚過ぎて、利用したくなかったそうです。

そうした全く喜ばしくない評判をいただくことになったわけですが、先日、その大会を共催した武雄青年会議所が主になり、そしてまたNPO法人臥竜塾が後押しして、ボランティアで白岩球場の清掃作業を、私も含め、みんなで行って来ました。大会関係者として参加して、こうした不評をじかに耳にし、せっかく遠方から武雄においでいただいたのに、武雄の大会は、古いし、汚いし、何もなかったなというような思い出を残されたのであれば、また武雄に行こうという気にはなれんだろうと。これで誘致しても、武雄市のマイナスにしかならんと。老朽化している球場を少しでも気持ちよく使ってもらえるようにという思いで、丸一日をかけ、トイレ掃除、草刈り、フェンスやベンチの洗浄、塗装を行い、今、見違えるほどきれいになりました。

トイレ掃除をしておった担当の人は、地獄やったと。もうぐあいの悪うなったと言うて仕事は終わりよんさったですけど、その後、私使ったら、においも何もなくて見違えるごとききれいになっとおわけです。それで、球場のフェンスも、ずっと洗浄して塗装までしたもんですから、業界関係者の方の話によっぎ、これだけのことばやるとなっぎ、どんだけ安く見積もっても2,000千円以上は楽にかかるよということでした。作業を行っていただいた皆さんに感謝申し上げる次第でございます。

さて、昨年に引き続き、ことしも7月の終わりに、プロ野球のソフトバンクホークスと阪神タイガースの2軍の公式戦が嬉野市のみゆき球場で開催されました。主な関係者の方は有田町の方で、有田の赤坂球場では開催できないことから、嬉野市のみゆき球場へ誘致されております。また、唐津市においては、市自体とホークスが交流宣言をしており、その企画の中で、今月末に嬉野市と同じように2軍の公式戦が開催されようとしております。

このように、ほかの自治体はスポーツを通じたまちづくりについて積極的な動きを見せております。これは、嬉野市や唐津市は公式野球ができる球場を所有してあるからでありまして、武雄市にはありません。市内に二つ球場が、白岩球場、サンスポーツランド北方球場があります。しかし、どちらもプロはもちろん、大学、社会人などの硬式野球の試合を誘致できる球場でないのは言うまでもありません。

来年、ソフトバンクの2軍戦を武雄市でという話もあります。その前には軟式野球の高松

宮杯の全国大会を武雄市でという話もありました。前回の議会で議論しました、卵が先か、鶏が先か。市長は鶏があって卵とおっしゃいましたが、改めて考えると、卵があって鶏もありだと思えます。それでもやはり水かけ論になるのでしょうか。

ドラマ誘致に成功した武雄のポテンシャルで、佐賀のがばいばあちゃん課ができたように、前回そういう話が少しでも出てきたらつくると言っていたいただきましたように、スポーツ振興課という枠組みで、いっそのこと卵と鶏、両方一遍に実現するようなことができるのではないかと思うわけです。そのためにも、借金ではありますが、合併特例債を活用できるのであれば、ぜひとも施設の整備をお願いしたいと考えております。

体育施設の充実、特定の場所の発展ではなく、市内においても均衡ある発展につながると思えます。財政的に厳しい状況で、好きこのんで箱物の話をしたくはありません。しかし、ネーミングライツなどの活用、また、いろんな方法を考え、まず受け皿をつくること、施設整備を考えないことには、このまちのスポーツ文化は必ず衰退していくと危惧しております。

先日、武雄青年会議所が行いました、武雄市を発展させるにはどうしたらいいと思うかと、アンケートを試みました。また、その結果も見ました。右肩上がりで定住人口も伸び、経済の発展という現象が起きているのであればいいのですが、今の武雄では、市外からの利用客を取り込み、市内でお金を使っていただくことが必要でありまして、例えて言うなら外貨ということになりますが、そういう外貨を取り込もうと、そういう方法で最も多かった意見が、スポーツ施設を充実させ、大会キャンプを誘致することでした。

もちろん私と同様、若い同世代の人間が集まっているのですから、一番身近に感じているスポーツを取り上げていると思うんですが、参考までに、某地区の球場の改修費用は230,000千円程度と聞いております。みどりの森県営球場は、総工費39億円を要しております。一般的に硬式野球などの誘致可能な球場をつくると考えると、鹿島市民球場の710,000千円、佐賀ブルースタジアムの860,000千円程度かかっており、このくらいの投資が必要になるかと思えます。

今の白岩球場は、30年以上前に国体に合わせ、自衛隊などの力をかりてつくられた経緯もあるようですが、残念ながら、今の時代に立ちおくれた施設であります。巨額の投資が必要になり、もちろんそれに伴う綿密な計画を練る必要もあります。誘致事業などとあわせて、スポーツ振興課という枠組みを新設するとともに、武雄には、各スポーツ界に精通しておられる方がたくさんおられますので、そういった方のアドバイスを聞き、施設の充実と誘致を行い、市外からも利用していただけるようなスポーツ環境の整備、スポーツ少年たちの夢への創造、そして、市の経済効果といった相乗効果を期待できるよう、市の体制づくり、施設の充実を考えられないかとお聞きしたいのですが、よろしく申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

スポーツ施設に関して、私から答弁をいたします。

いろいろ試算はしてみました。その結果、改修と新設で種々違います。体育館だったり、球場であったり、それはやっぱり30億円ぐらいかかるわけですね。合併特例債という話もありましたけれども、これも基本的には借金です。だから、そういった意味で、これを費用対効果という観点から、ただつくるということに関しましては、私は反対であります。やっぱり、私はほかに回したい予算があります。これは子育てであったり、福祉であったり、障害者福祉であったり、それはそういうふうに使いたい。

私がもし可能性があるとするならば、例えば30億円かかってつくりましたと。そのときに、運営は、例えばどっかの企業さんがネーミングライツでやりますと。こういった形で、市の負担が例えば2億円から3億円で済みますといったことになれば、私は足し算と引き算の論理で、それはあり得るというふうに思うとおわけですね。武雄に果たしてそれだけのポテンシャルがあって、それに呼応して企業があるかどうか。

まだ私は市政を預かって半年にもなりません。だから、そういったことも含めて、また教えていただければ、それは乗れる要素はあると思います。私もスポーツを通じて健全育成であるとか、まちおこしというのは私も全く同感であります。しかし、先ほど申したように、一般の市民が、例えば20億円から30億円と言ったときに、果たしてこれにオーケーだと、どんどんしましようということに関して言うと、私の先ほどの説明だけでは、ちょっとやっぱりしんどいかなというのは率直に思っております。がばいばあちゃん15,000千円でも大激論になりました。これは、私にとっても非常にありがたかった話だというふうに思っております。そのやっぱり10倍から20倍の議論がもっと必要かなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

済みません。30億円というのは、どういう計算で30億円というのが出てきたのか、ちょっと教えていただければ幸いです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、事務方で試算した結果、体育館の施設を新設するといったときは、14億円から20億円かかります。これは合併特例債の適用があります、新設の場合は。しかし、これは後代に借金として残るといふ部分は加味してお伝えしたいと思います。それに加えて、球場であります。球場については、新設と改修で大きく変わるとは思いますけど、基本的に改修といふのはなかわけですね、この件に関して言うと。さすれば、我々の方で試算をして、大体10億円、

最低でも10億円ぐらいかかるのではないかという、これは規模によって、あるいは観客席によっても違いますので、この二つを合算したイメージの数字を申し述べた次第であります。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

大体私の試算と一致しておりましたので、いきなり30億円が出てきたので、びっくりしましたけど。

そういった感じで、総工費、例えば、みどりの森県営球場が39億円と申し上げましたけど、これが武雄にああぎ、キャンプが可能だと思うわけですね。今の県営みどりの森球場を使っただけのキャンプというのは、私が聞いている限りでは行われておりません。仮に同じ球場が武雄にあれば、温泉宿泊施設、そして、武雄では可能になると私は思うわけです。温泉とか宿泊施設などの特権とか、また、これから各世代に人気になるであろう、がばいのロケ地めぐりとか、ほかにも伝統ある歴史遺産とか町並みとか、武雄では最高の付加価値を提供できると思うわけですよ。

和歌山県のどこやったですかね、和歌山県のどこかの市でそういう取り組みを、キャンプをすべて誘致しようというような動きがある、積極的にやられている市があります。そういったところで、観光だけをPRというんじゃなくて、観光ももちろんPRしながら、そういうキャンプとか、合宿とか、大会とか、そういったものを取り込むのであれば、とにかく武雄を堪能してもらえようなまちになると思うわけですね。

合併特例債は手段であって目的ではないと、言い方を変えると、融資と思うわけですよ。融資も、民間の企業、金融機関では、運転資金としてはなかなかやっぱりどこも貸してくれんわけですね。事業資金として、その融資自体が回収可能か不可能か、そこを判断されて実行されているわけです。そういうことから、武雄市としても投資として使わんざいかんと。投資を行う上で利益、また税収を上げなければいけないということで、外貨を取り込むことが必要であるというふうに言っているわけでございます。

先日、競輪場で行われましたワールドカップのパブリックビューイング、大盛況でした。さすがと思わせる内容でした。実行委員長の貝原氏を初め、スタッフの努力のたまものと思います。言い出しっぺは、我々議会の中におるようですけど。

サッカーにちなんで言いますと、このたび武雄市において、9月25日、サガントス・サッカースクール武雄校が開校します。鳥栖市、佐賀市、唐津市、小城市に続き、県内5番目の開校ですが、先日の11日、プレ開校が行われ、無料体験の体験学習だったんですが、私も、もちろん見学に行っていました。この先楽しみと思えることを実感した次第でございますが、これまでの武雄の動きは、市民を無料で試合観戦に招待し、サッカーを身近に感じてもらい、地元プロチームであるサガン鳥栖を応援しようという試みでした。今回のサッカー

スクール武雄校の取り組みは、サッカーによるスポーツ振興の窓口にもなるかと思えます。将来的には、サガン鳥栖公式戦、東部地区ではホームの鳥栖スタジアム、中部地区では佐賀総合グラウンド、西部地区では武雄でというふうになれば、武雄の温泉は大きな力を発揮すると思うわけです。しかも、交通の要衝であり、県内はもとより福岡、長崎ともに1時間圏内と。さらに幸いにも、福岡、長崎、両隣の県は佐賀よりもサッカーが大変盛んなところがあります。

こうしたことから、県内あるいは他県からの来訪客が多く望めるに間違いはないと考えるわけでございます。しかし、こうした好条件がそろっている中であっても、残念ながら整備されたサッカー場はありません。白岩競技場で考えても、フィジカルキャンプを誘致しようにも状態が悪過ぎて、数年前実施していただいたにもかかわらず、練習会場を鹿島市民球場に移されたという苦い経験もあるようです。残念としか言いようがないと思うんですが、なら今の施設で、まずできることを考えてみたいんですが、サッカースクールを通して武雄のよさを広くアピールするしか、もう方法はないわけですね。

芝の状態を改善させ、単純に50,000千円程度で、芝の状態は完全に改修ができるという話もちらっと聞いたんですけど、設備を整えればキャンプ誘致、キャンプ誘致もサガン鳥栖だけじゃなくて、近隣の市町村、例えば嬉野とか、鹿島といった自治体と共同で手を組んで、ほかの数チームのキャンプを誘致させるような取り組みも考えられるんじゃないかと思うわけですね。新幹線の整備も追い風になって、佐賀の西部地区はサッカーのキャンプめぐりができるというセールスも十分ありと思うわけです。そう考えた場合に、玄関口になるのはやはり武雄だと思うわけです。まず、武雄が名乗りを上げないことには実現できないと考えます。こうした取り組みの先陣を切ってみてはいかがでしょうか。

今回のサッカースクール武雄校の目玉は、県内初の女性を対象としたスクールです。女子サッカーのみ室内で行われるということです。室内というとフットサルが頭に浮かびますが、県内でまだ本格的な取り組みが少ないフットサルならば、今の施設に少々手を入れることにより開催可能だと思うわけございまして、フットサルでのまちおこしも当然考えられると思います。このようなスポーツを起点とし、まちづくり、また、佐賀県の西部地区づくりも考えられると思うわけですが、どうでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

サガン鳥栖の武雄校の開設は、私も相当かんでおりましたので、そういった意味からでも非常に喜ばしいことだというふうに思っています。その中で、私が非常に賛同、自分の中で、ああ、いいなと思ったのはフットサルです。フットサルは今、全国でどんどん競技人口がふえておると。限られた施設と限られた時間で、人数もそがんと。これはいいヒントを

いただいたなというふうに思っています。

先ほど答弁すればよかったですけれども、例えば、サッカー場をつくろうという議論になったときに、じゃあ、果たして10年後に今のサッカーの人口は維持できているか。これは自信を持ってそうだと言う方は多分おらんと思うとですね。そのために、10年たって見たときに何であがん選択ばしたとやろうか、これが今の大阪の高槻市の状況なんです。私も一生懸命推進をしてやってきましたけれども、それはやっぱりつくる以上はどうしても、費用対効果というのを10年後の目からもやっぱり検証せんばいかんと。スポーツ施設が本当にそれに、例えば、多目的は私はだめと思うとですね。やっぱり今求められているのは、専用の例えば陸上であったり、サッカーであったり、野球であったり、そういった観点からすると、非常にリスクも大きいというふうに思うとおわけですね。

そういった意味で、フットサルということは、非常にいいヒントを確かにいただいたと思っていますので、それはちょっと、こちらの方からもどういった仕掛けができるか、また、サガン鳥栖の佐野副社長さん、あるいは貝原委員長さんとも、J Cの皆さんとも相談をしていきたいというふうに思っています。ありがとうございます。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

フットサルでまちおこし、当然考えられると思いますので、私も精いっぱい兵隊となって頑張っていきたいと思います。

そういう施設も、例えば、税金とか特例債だけじゃなくて、がばいのごと市民から寄附を募って、協賛していただいた方の名前とかが公民館やお寺のごと協賛してもらった人の名前ば残したりとかしてですよ、そがんで寄附ば募ると。それで、その寄附をしてくれた方の名前がスポーツ施設に残るわけですね。そいぎ、その名前の知っている方とか、子孫 孫とか、ひ孫とか、そういうふうな年代まで、あつ、じいちゃんの名前のあるとかですよ、ばあちゃんの名前のあるよとか、そがんでいくぎ、スポーツ施設ばおろそかに使う人もおらんと思うし、みんなそういうとはぜひと言うと、賛同してくれる方で結構おると思うわけですよ。

太宰府に九州国立博物館というのがあって、総工費の1割は募金で建築されておることですもんね。国の施設やけん、メインとなる企業協賛社のみ数社、名前が残っておるといような話ですけど、これは市民のスポーツ施設に市民の方々の、もっと身近なことで考えるというのは可能じゃないかなと思うわけですけど、その取り組みとしてはどがん思いんさあでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も、その趣旨には賛同しています。以前、アメリカを旅行しておったときに、美術館でも博物館でもスポーツ施設でも、さっき言いんさったごと、名前がずっと載っとおわけですね。額まで載っとおわけですね。額の太かぎんた扱ひも大きかわけですね。ああ、こういう集め方もああとなと思って感心はしました。

そのときに翻って、今の御質問でスポーツ施設を考えた場合に、額のちょっとやっぱり分母の大き過ぎて、さっき申し上げたように14億円とか16億円かかると。そのときに、どれだけ集まるかと。がばいの場合は、もともとのお許しいただいた額は15,000千円で、今、協賛金とか、その母体が15,000千円なんですよ。今回、15億円とかなったときに、果たしてどれくらい集められるかどうか、どれくらいのことのできるかというのは、ちょっと私も自信がなかわけですね。ただし、その趣旨については私も全く同感であります。だれか大口の寄附あれば、ぜひ私に教えていただければありがたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

その九州国立博物館も、総工費230億円、その1割ですから23億円ですね。それを数年かけて募金等で集められているという話を聞いております。ですから、今すぐどうろこうろじゃなくて、長期的に考えてでも、今のスポーツ施設は、とにかく足りないというのははっきりしておりますので、いろんな方法を考えて、今後も私もいろんな角度から考えていくつもりであります。

ちょっと話を変えまして、つい先日9月3日、武雄中学校のOBソフトボール大会が開催されました。市長も祝辞に参られておりましたので、そのときの白岩運動公園の競技場に来られ、来場者の車の駐車状況をごらんになられたと思います。今の白岩競技場や運動広場の使用時は、競技場の方に駐車場が整備されていないため、毎回ああいった状況で、通路や林の中に無理やり車をねじ込んで駐車されているわけでございます。非常にこれは危ないと感じるわけですが、ひどいときには送迎バスまで上に上がってきて数十分、長いときには1時間ほど立ち往生というようなことも見てきました。

幸い、ソフトボール場として使用される運動広場は競技に適しているため、県内のトップクラスの試合もあつたりします。本来は下の駐車場を使用して、階段を使って上がるということはわかりますけど、高齢者や小さい子供さんを連れた保護者の方々も多数来場されます。子供たちにかかわるイベントでは、もうそのわきの道路上にびっしり車がとめられた、そのわきから飛び出す子供を見てどきっとこっちもしたこともあるわけですよ。何かあってからじゃ遅いと。

そういうことから、競技場横の空き地、のり面というかですね、そういうむだなスペース

と言うたらちょっと語弊があるかも知れませんが、そういったところに駐車場を設けるようにして、今の時代、不便な施設は敬遠されますので、車を整列して、数多く駐車できるように整備するだけでも有意義だと考えるわけですが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

執行部、答弁を求めます。樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、白岩運動公園の駐車場のあり方は、今でも体に障害をお持ちの方、高齢者の方は、お申し出があれば、上のところを優先的に使っていただくということにしております。その上で、じゃあ、例えば相撲場の前とか、駐車場に広げるべきだということに関して言うと、今の現状からすると、私は反対であります。

というのも、今こういうふうにせっかく緑が育つとおわけですね。それを伐採してまで、費用をかけてまで駐車場にするということに関して言うと、私は市民の合意というのはなかなかとれんというふうにおわけですね。せっかく緑があるのに、なぜだと。だから、私はスポーツを勧める観点からいうと、やっぱり下に駐車場のああけんですね、そこは、私は歩いていただくのが筋だというふうにおわけですね。ただし、先ほども申したとおり、どうしても利用できないと、その下から歩いていくのに関してはですね。それは申し出がある場合は、きちんと対応したいというふうに思っています。やっぱりしっかりした足腰づくりも、私はスポーツの一環だというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

以前、担当課に出向いたときと同じ答えではございます。これは、何も木ば伐採してアスファルトでびしとした駐車場ばと言ひよるわけではなかわけですよね。そういう駐車場じゃなくてよかと思うわけですよ。財政的にも厳しいというのももちろんわかっておりますので、例えば、その植え込みの木をちょっとずらして、そこを更地にしとって車が入れるというような、ちょっと言い方は悪かばってん、がばいばあちゃんのごたあ、貧乏は貧乏なりにやなかですけど、知恵を使って市民に使い勝手のよい施設を目指すよう努力をするというのはいいかと思ひます。

私もよく利用するんですけど、あの下に、駐車場にとめて、あそこの運動広場まで行こうでちゃ、おいどんでもざっとなかとですよ。ここに、4階に上がるよりか、はるかにきつかわけですね。そういうことで、ちょっとスポーツ施設整備も、そういうふうにして市民と行政が一体となって使い勝手のいい施設をつくるというのはぜひ考えていきたいと、考えて



いただければと、そう思っております。

最後に、13番議員の質問の中にもありましたけど、武雄の祭りについてです。

これまで旧武雄市では、お祭り振興会の御尽力もあり、春まつりや夏まつり、また、流鏝馬に代表されるような秋まつり、観梅祭り、ほかにも各種さまざまな祭りが繰り広げられております。山内、北方でも同様に、各種開催されてきております。

今回の合併も絡み、今後の武雄の祭りのあり方を、市長は、武雄のこれまで数ある伝統の祭りを集約して、武雄の名物に、例えば、ねぶた祭りとかだんじり、また九州内でいえば、どんたくとかですね。武雄の観光ブランドに持っていけないかという考えを持ってお話しになっておられました。私も全く同様の考えでありまして、武雄の祭りはおのおのでもすばらしいのですが、ある一定集約すると、観光ブランド化にできると思っております。

実際、武雄の祭りを考える会が発足して、正式には、武雄の祭りは魅力アップ隊というのですが、いろいろな議論がなされていると聞いております。しかし、市民の中には、うわさがうわさを呼び、違う解釈をしている方も多いのも事実です。ひどい方になると、祭りがなくなると思っている方もいらっしゃいます。そういう、考える会以外の方々には現段階での情報が不足しており、混乱を招いておるのではと思いますので、祭りを変えたいと思われた趣旨や現時点での考えを、この場をかりて市民に御説明いただければと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほどの答弁とちょっと重複するかもしれませんが、お祭りについて2点考えなければいけないというふうに思っています。

一つは、例えば山内であったり北方であったり、さまざまな地域でいろんな祭りが行われている。これについては個々の自主性、あるいは伝統を生かして、さらに継承、発展をしていただきたいというふうに思っております。これを市政担当者からどうこうしてくれといったことは全く考えておりません。

我々が考えているのは、補助金を出す祭りであります。これについては、補助金を出す以上は費用対効果を考えなければいけません。多くの方々に喜んでいただく、あるいは観光の起爆剤になる、そういった観点から、補助金の対象のお祭りについては今分散していますので、ある程度集約する必要があるとやなかかということが私の基本的な見解でありますし、今、検討委員会に私の考えをきちんと伝え、その枠も含めて活発な議論をされています。今、この下案をつくっている段階ではありますけれども、検討委員会では今月中に市民アンケートを実施する方向で検討を進められているようであります。

そういった意味で、各町の公民館であるとか、あるいは市役所であるとか、場合によっては、これはホームページもそういう意見を寄せていただく場をちょっとつくろうというふう

に思っています。そのためには、我々 私もお祭り振興会の会長ですので、こういうお祭りが今武雄市に求められているのではないかといったことで、まず意見を提示していきたいというふうに思っています。

そういった意味からでも、ちょっと私も説明不足の感があったというのは反省をしておりますし、こういった機会を答弁の場で与えていただく、これは13番議員も同じでありますけれども、感謝をしている次第であります。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

本日の質問は、すべて私自身、にぎわいに関連している質問をしたと思っております。先ほどの市長の答弁にも、私の答弁ではありませんけどありましたように、嬉野と武雄が同等やったら、今の段階では9割は嬉野よと。もちろん、わかるわけですよ。私も東京に4年間サラリーマンしよった時期があって、「どこからね」と、「武雄から」と言うてだれもわからんわけですね。「嬉野から」と言うぎ、わかんさあわけですよ。それだけ認知度がちょっとやっぱり低かわけですね。

そいぎ、そういうふうに、とにかく今、新幹線を持ってきて武雄に半分、嬉野に半分となっても、今の段階では嬉野に行きんさあ人が多かとかやなかかと。ただ、今回、「佐賀のがばいばあちゃん」、これが起爆剤になって武雄に行こいという気持ちになられた方というのが今後さらに見込めると思うわけですね。そいけん、もうとにかく市民にもにぎわいが感じられるようになってきましたし、まちのあちらこちらでも、がばいばあちゃんについての話が飛び交いよるわけですよ。武雄のPRは今始まったばかりやっけんですね。ドラマロケの成功を記念して、微力ながら私もドラマを宣伝するとともに、続編、あるいは第2のがばいばあちゃんが、またこの地でロケーションされ、機会があれば、今度は自分がエキストラに挑戦してみようかなと。私が出演すっぎ、視聴率が落ちると言われますので、ちょっとその辺はよう考えて、議会中継ではない形でテレビに出演することを夢見まして、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長（杉原豊喜君）

以上で、1番上田議員の質問を終了させていただきます。

次に、7番古川議員の質問を許可します。御登壇を求めます。7番古川議員